

講義コード	11C0116800	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第1期
科目名	日本経済史Ⅰ					高橋 美由紀		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	「日本経済の今後はどうなるのか」という問いに、現在のみを見ていたのでは、良い解答は得られません。景気の悪い時代は過去にもありました。先人達は、これにどのように立ち向かっていったのでしょうか。本講義では、中世から幕末までの日本経済をとりあげます。その中で、「人口」「病気」「環境」等、長期的に観測可能であり経済に与える影響も大きいトピックと、経済に影響を与えた人物について考えていきます。								
到達目標	日本経済がどのような足跡をたどってきたのかを、世界との関わりの中で理解し、その良い点と悪い点を把握し、自分なりの見解が述べられること。また、経済史において重要ないくつかの用語に関してきちんと説明ができること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義前にストレージサーバから資料をダウンロードし、熟読し、分からない箇所は個人で調べておくこと（講義前2時間、講義語2時間、計60時間）。また、その他に、参考としてあげた書籍を読み、レポートにまとめること（提出方法・時期については講義中に指示する）。								
授業計画	<p>【第1回】日本経済史を学ぶ意義——歴史と現在</p> <p>【第2回】経済史への様々なアプローチ——数量経済史・歴史制度学派など</p> <p>【第3回】日本中世における人口・家と経済</p> <p>【第4回】大航海時代と日本経済——豊臣秀吉と海外の同時代人</p> <p>【第5回】日本への使者——鉄砲、銀とキリスト教</p> <p>【第6回】中華社会と「鎖国」日本</p> <p>【第7回】人物から見る日本経済1——熊沢蕃山・新井白石と荻原重秀</p> <p>【第8回】人物から見る日本経済2——荻生徂徠と太宰春台・石田梅岩</p> <p>【第9回】人物から見る日本経済3——安藤昌益・三浦梅園・海保青陵ほか</p> <p>【第10回】人物から見る日本経済4——山田方谷と藩政改革</p> <p>【第11回】日本財閥の起源——三井家にみる</p> <p>【第12回】プロト工業化の時代と歴史人口学</p> <p>【第13回】農民の暮らし、町人の暮らし、武士の暮らし</p> <p>【第14回】「鎖国」の終わりと諸外国の動き</p> <p>【第15回】江戸時代までの日本経済（まとめ）</p>								
成績評価の方法	講義中のクイズ・リアベ・レポート、授業態度、定期試験。								
フィードバックの内容									
教科書	使用しない								
指定図書	『日本経済の歴史』中西聡他（名古屋大学出版会）2013、『日本経済史 近世・現代』杉山伸也（岩波書店）2012、『日本経済史1600-2000』浜野潔他（慶應義塾大学出版会）2009、『日本経済史——太閤検地から戦後復興まで』老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一（税務経理協会）2002								
参考書									
教員からのお知らせ	ほとんど毎回の授業時にリアベ・クイズ・レポートのいずれかを行う。映像なども適宜用いる。参考書は必要に応じて適宜紹介する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応するとともに、メールにても受け付けます。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにても受け付けます。								
その他	講義参加者の希望等によって、講義内容は若干変更することもある。								